

学生大使 実施報告書

氏名：松本怜亜莉

学部・学科（コース）・学年：地域教育文化学部

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：令和5年9月5日～令和5年9月19日

1 日本語教室での活動内容

ベトナム国家農業大学では、平日の毎日18時30分から1つの教室で日本語クラスを実施しました。ベトナムでは日向クラブという日本に興味がある人たちのクラブが派遣学生のサポートをしてくれます。その日向クラブの学生と大学の学生や外部のご家族など、色々な方が参加してくれました。

授業は今回の派遣学生3人で人数を分担して行い、私の担当した方々は50音からの学生や基本的な単語を教えて欲しいという方でした。50音から学習する学生には、ホワイトボードで字を大きく書きながらローマ字も交えて書き方と読み方を同時に教えました。

基本的な単語を教えて欲しいという方は10歳の男の子で、お父さんが用意したテキストがあったのでそれに沿って教えました。

日本語クラス最後の日には、派遣学生3人で作ったかるたや、黒板にひらがなをランダムに書いて読み上げられた文字を探す遊びも行いました。

最初はひらがなから勉強していた生徒が、最終日に他の生徒と一緒に50音のかるたを遊んでいる光景に感動を覚えました。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語クラス以外の時間では平日は現地学生に学校周辺を案内してもらい、買い物や食事をしました。

食事面で印象的なのはホビロンとタニシです。ホビロンとは、孵化しかけのアヒルの卵を茹でた料理です。私が食べたものは黄色い部分と白っぽい部分に分かれていたのですが、黄色い部分は卵の、白い部分は鶏肉の味がして、見た目と反してとてもおいしかったです。同じ調理法のうずらの卵が鍋に入っていることもありましたが、独特な味はせずそのまま卵の味でおいしかったです。タニシはラーメンの具材で入っていたものと、香草と一緒にゆでられたものを自分で身を殻から出して食べる料理の2種類を食べました。自分の中でタニシは虫に近い存在だったのでとても抵抗があったのですが、食べてみると普通の貝のようでおいしかったです。いずれも日本ではなかなか食べることが出来ない料理だと思うので、ベトナムで挑戦して良かったと思います。

出かけた場所で印象的だったのはオーシャンパークとイオンです。オーシャンパークとは大型都市開発エリアで、高級住宅街のような家と大型ショッピング施設、大学、さらには人工海まで作られています。私たちが訪れたときには平日の昼にしても歩いている人がほとんどおらず、多く並んでいる住宅にも住んでいる人は少ない印象を受けました。まだ開発途中のようなので今後どこま

【学生大使 実施報告書】

でエリアが拡大し、どのような施設が増えていくのか、そしてどのような人たちがどれくらいの人
数住むのか追ってみたいと思います。

イオンの見た目はほとんど日本にあるイオンと同じで、スポーツクラブのルネサンスや無印良品、
ユニクロなど日本発の企業も見られました。また、飲食店でもスターバックスやバーガーキング、
ケンタッキーなど日本でもなじみのあるお店が入っていました。私は日本のケンタッキーでアルバ
イトをしているので、ベトナムはどうか気になり、行ってみました。メニューの量や種類のほ
とんどすべてが違い、味も全く異なっていました。また、注文した商品が欠品していたようで別の
メニューになりました。その際の対応も、日本であれば何回も謝って伝えて客も不機嫌になる人が
多いのですが、店員さんも現地学生も当たり前のように対応していて、普段の慣習の違いを感じま
した。

休日には少し遠出をして世界遺産など有名な場所に連れて行ってもらいました。ホアンキエム湖
周辺やホーチミン廟、陶磁器が有名なバッチャン村やホアロー刑務所、文廟、タンロン城などに行
きました。特に印象に残っているのはホーチミン廟とホアロー刑務所です。ホーチミン廟では夜の
国旗降納式を見ました。ベトナムの国家が流れる中でベトナムの国旗が軍の人によって降ろされる
光景と、それを多くの人が見ている様子は日本では見られない光景だと思いました。ベトナム人
にとってのホーチミンの存在の偉大さや国旗の持つ意味の重さを感じました。また、ホアロー刑務所
では戦時下の状況が写真や像によって生々しく展示されていました。特に印象的だったのは当時刑
の執行に使われていたギロチンと日本軍が支配していた時期の記録です。ギロチンが印象的だった
のはもちろんのことなのですが、日本軍が占領していた時期の記録ではまともな食事も与えられず
過酷な生活を強いられていたという記録もあり、とても衝撃的でした。私はあまり歴史のことを知
らないのでホアロー刑務所の展示はすべてが衝撃的でした。今後ベトナムはもちろん様々な国の歴
史を学びたいと思いました。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私の目標であった様々な人とコミュニケーションをとる勇気や様々なことに挑戦する勇気を身に
つけることと、ベトナムのことを知ることに関しては両方達成できたように思います。特に、
主に英語でコミュニケーションをとる方との対話を恐れずに積極的に行うように努力しました。ま
た、疑問に思ったことは何でも聞くようにしてベトナムのことや日本との違いについて学ぶよう
にしました。

t

4 プログラムに参加した感想

今回参加して、目標を達成できただけでなく多くの友人や気づき、学びを得られました。最初は
不安ばかりでしたが、思っていた以上にベトナムでの生活は楽しく実りの多いものでした。今回得
られた友人や学びを大切にしたいと思います。また、今回ベトナムに行って、ベトナムと日本の違
いを感じたほかに発展途上国と先進国の違いも感じる事が出来ました。ベトナムでは上に述べた
ような富裕層向けの開発エリアが存在すると同時に、年金や社会保障を受けられずに自ら観光地な
どで物を歩き売りして収入を得ようとしている人もいました。日本の貧富の差が大きいわけ
ではありませんが、まだ社会保障が充実していないベトナムでは顕著にみられました。このような格

【学生大使 実施報告書】

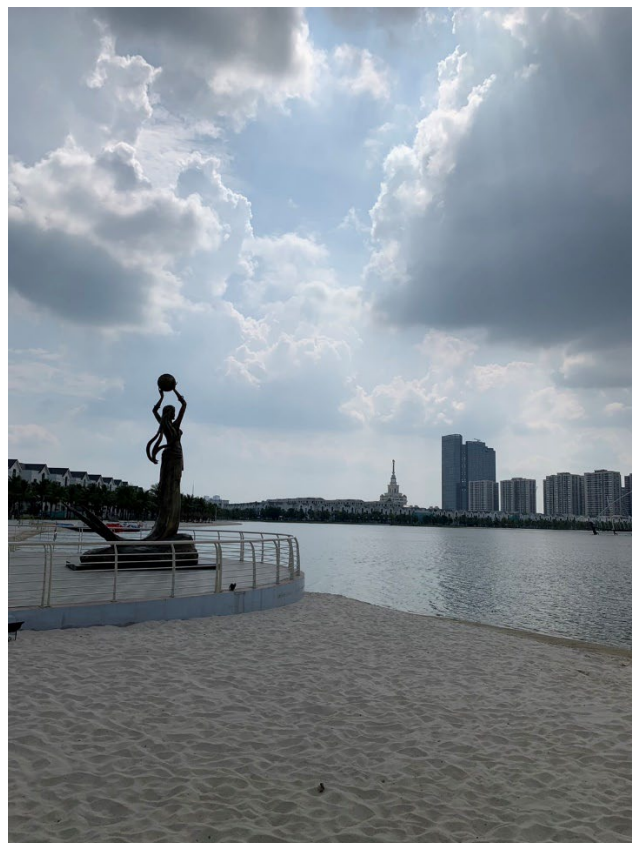
差をなくすためにも他国との協力は不可欠であると考えます。私はそれが日本であればうれしいと思いました。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回の経験を踏まえて、今まで高かった国際交流のハードルがとても下がりました。今後はそれを活かして様々な国や地域の人と交流したいと思います。また、ベトナムでできた友人たちとも交流を続け、またベトナムに行きたいと思います。



アオザイ



オーシャンパーク

【学生大使 実施報告書】



タンロン城



ハンマ